（第三種郵便物認可）　河北新報　第2朝刊　平成22年(2010年)12月28日(火曜日)

©河北新報社2010

NIE特集
Newspaper In Education

どきどき小学生

不二が丘小

学校名	名取市立不二が丘小学校	校　長	山田　芳弘
所在地	名取市名取が丘6の11の1	児　童	415人
電　話	022(382)2097		

住みたい人いっぱい

「ニュータウン」ってな〜に？

知り隊

校庭もみんなで整備

私たちの住む名取市の名取が丘は、小高い丘の上にある団地です。近所のおじさんやお年寄りの方の中には、名取が丘を「名取ニュータウン」と呼ぶ人がいます。地名でもない、新しいわけでもないのに、どうしてニュータウンと呼んでいるのか不思議に思っていたので、調べてみることにしました。

最初に学校について、調べてみました。私たちの学校は、開校41年目です。仙台の郊外なので、人口が急増しました。児童数を調べたら、学校ができて6年間はどんどん増え、一番多い時は1355人、今の3倍です。昔はもっともっとにぎやかだったんだろうなあと思いました。その後、児童は年々少なくなっていきました。

山田さん親子（後方）と、知り隊取材陣

団地ができはじめたころの様子を知っている山田司郎さんと、お母さんの仁子さんに取材しました。山田さんは不二が丘小の6期目の卒業生で、元PTA会長さんです。

昔は山だった名取が丘は、1963年から造成され、「名取団地」という名前でした。山田さんに「その時、住宅供給公社がつけたニックネームが『名取ニュータウン』だった」と教えていただきました。

仁子さんは「ニュータウンに住みたい人がたくさんいたので、当時は土地を買うためには、くじ引きをしました」と言います。「できたばかりのニュータウンは石がたくさんあり、赤土が多くて、大変だった」と続けて話しました。

石ころだらけだった小学校の校庭は、たくさんの地域の大人の人が石拾いをしました。私たちが遊ぶ公園やグランドの石拾いをし、平らにならしてくれたのも地域の人たちでした。

最初はバス停も少なくて、仙台や名取駅に向かうのも大変だった名取が丘ですが、保育所、公民館、郵便局ができて、今の住みよい名取が丘ができていきました。

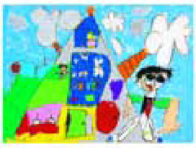
◇　◇

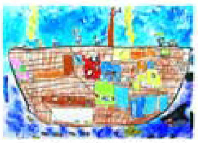
山田さん親子の取材を通して、地域の人たちが、みんなで協力して名取が丘のまちづくりをしてきたことが分かりました。

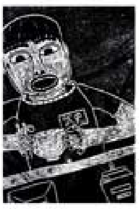
名取が丘はすてきなまちです。これからは私たちが、名取が丘を大切にしていきたいです。

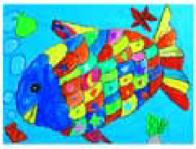
文・荒千尋、佐藤治郎、渡辺菜央、阿部春花、斎藤日菜里、野角真穂、浜田智美（6年）

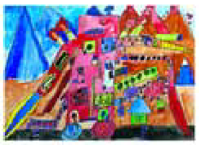
うきうきキャンバス

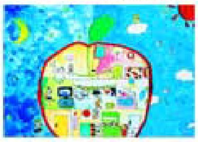

山のおうちにすみたいな　1年・今野淳宏

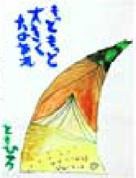

大かいぞくの大ぼうけん　4年・菅原樹芸


おいしい給食　6年・佐藤武史


にじ色の魚　2年・宮野莉玖


ふしぎな乗り物　3年・佐々木凜


朝と夜の間のりんごアパート　5年・石川真帆


たけのこ　6年・石川友裕

言い隊

■ちびごみ拾い隊結成■

4年生の時の道徳の授業をきっかけに「私に今できることはなんだろう」と考え、「ボランティアで地域のごみ拾いをしてみよう」と考えました。始めてみると想像以上にごみが多く、驚きました。特に大人が捨てたと思われるごみがたくさんありました。

その後、クラスの友達5人で「ちびごみ拾い隊」を結成し、本格的にごみ拾いをしてきました。ほかにも地域にポスターをはったり、保育所で手作りの紙芝居をしたりして訴えました。

私たちの姿を見て、地域の大人の方もごみ拾いに参加してくれるようになりました。たくさんの人と協力し、きれいな町にしたいです。

（6年・阿部春花）

■プルタブ集め車いす■

私の学校では、みんなでプルタブ集めをして、近くの老人ホームに車いすをおくっています。私の家にもプルタブ用の袋があって、缶についているプルタブは、家族そろって捨てずに集めています。

家で集めたプルタブは、学校の大きなケースにまとめます。プルタブは約600㎏で、車いす1台に変わります。1台の車いすに必要なプルタブを集めるには全校で取り組んでも4年かかるけど、小さな力も集めれば大きな力になります。

日本には、お年寄りがいっぱいいます。足の不自由なお年寄りに喜んでもらえるように、これからもがんばって集めていきたいと思います。

（6年・高橋あかり）

教え隊

スーパーサマースクール

ケーナ作りを楽しむ

夏に開かれたケーナ作り教室

不二が丘小では、夏休みに地域の方を講師にお迎えし、「スーパーサマースクール」を開いています。華道や茶道、「ミクロの世界」などたくさんの講座があります。

ぼくたちは、ケーナ作りに参加しました。竹を選んだり節を削ったり、指穴を開けたりする作業をして、ようやく完成しました。なかなか思うように作れなかったのですが、「世界に一つだけの笛」ができあがり、とても満足しています。

冬休みには「ウィンタースクール」が開かれます。冬の講座も楽しみです。

文・板橋拓海・庄司光希（6年）

編集後記

「知り隊」の取材を通して、名取が丘ができたころの様子や当時引っ越してきた人たちの苦労など、たくさんのことが分かりました。

団地名は名取が丘で、校名が不二が丘。団地名と学校名が違います。「不二」には「二つでない」「二つとない」という意味があるそうです。私たちはこの二つとない不二が丘小が大好きです。

編集委員となり、取材したことをまとめるのは簡単ではなかったですが、名取が丘のことをもっと知ってもらいたいという気持ちでがんばりました。

この新聞を読んで、大勢の人が名取が丘に興味をもってくれるとうれしいです。

＜編集委員＞荒千尋、佐藤治郎、渡辺菜央、阿部春花、斎藤日菜里、野角真穂、浜田智美（6年）
題字デザイン　真山柚乃（6年）
＜指導教諭＞川越孝子、赤沼隆史